磐城公論

毎月(二回)十五日・三十日發行
福島縣石城郡平町研町十九
編輯兼發行人　山田政好
福島縣石城郡平町紺屋町十五
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町研町十九
發行所　磐城公論社
電話四〇八番
廣告料　五號活字詰一行五十錢
場所指定十錢增
定價一部十錢　一年貳圓四十錢

創刊壹年を迎へて斷感を

◉一年間の業績

敬親やまぬ磐城公論の讀者諸賢、並びに余が知己、先輩諸賢過去一年間、諸賢より深甚なる御配慮と熱切なる御後援を忝うして、茲に本紙は創刊滿一週年を迎ふるの運びとはなつた。

諸賢より給はりし、御芳情に對しては、何れの日、何を以つて、如何にして報恩の一事を果すべきかと深觀内省する次第である。

さるにても、慚愧に堪えざるは、過去一年の業績なる。

余は机上に空しく横はる「磐城公論」創刊以來の集綴を凝視して、深慨措く能はざるものがある。

何故に!?

一言にして云へば、過去一年間の業績中、特記すべき何ものも無きが故に。

若しも強ひて、本紙の業績を自畫自讃的に枚擧せよとならば二三の業績はあらう。

一、昨秋縣會議員選擧政戰酣なる際、紙面を開放して各候補者に政見一端の發表を求め以つて有權者の批判に供した。又民政黨公認候補者、若松美三氏當落の難局に立ちたる秋、本紙は蹶然奮起して、同氏を擁護し、正義の筆劍を提げた。

二、昨年末、所謂電燈問題合理的解決促進のため、斷然一身を提して起ち、昨年十一月廿六日、單獨にて、平劇場に演說會を開催し、一方、本紙第五號を以つて、當磐地方に配電區域を有する各電氣會社經營當事者に警告を與へた。

三、今年二月衆議院議員總選擧に於て、比佐候補擁立のために、本郡下各町村を遊說すると共に、本紙第六號を、比佐候補推薦特別號となし徹底的に同候補を應援した。

四、本年五月磐城銀行休業以來、鄕土磐城は未曾有の經濟難に直面し、今も尙ほ受難最中である。本紙は飽くまで冷靜なる批判者の態度を嚴守し、嚴正公平なる評論の筆劍を執りつゝあるは、讀者諸君の御承知の通りである。

斯くの如きは、本紙の自家宣傳的業績である。

◉本紙の特質と本領

本紙は昨秋創刊に際して下記の事を公宣し、聲明した。

(イ)本紙は絕對獨立の立場に於て嚴正公平なる論陣を張り「社會の公器」たる使命を果す。

(ロ)本紙は磐城に於ける高級言論機關として鄕土文化運動の第一線に先驅して健鬪する。

(ハ)本紙は磐城一般大衆の公論を代辯して勇敢に正義の筆劍を提ぐ。

(ニ)本紙は正しき善良なる弱者の味方として決死的覺悟を以つて奮鬪す。

此の創刊當時の宣言と聲明は一年後の、今日も尙ほ毫も變りはない。本紙の生命の存續する限り、不肖が本紙を主幹し執筆する間何等の變化はない事を茲に嚴肅に宣誓する次第である。

本紙の特質と使命は如上の四大願誓に遺憾なく表現されてゐる。

◉將來の願望と期求

讀者諸賢!萬々御諒承の事ならんも、本紙は所謂新聞とは少しくその趣きを異にし、全力を批判と評論と指導に傾注し來つた。

所謂月刊、旬刊、週刊の言論機關の特長は「批判と評論と指導」にありと確信するものである。

時あつて、大衆の輿論は、群集心理に支配せられ、盲目的感情に驅使せられ、冷靜なる理性の判斷を沒却して、底止する所なく脫線する場合がある。かゝる場合、月、旬、週刊とその記者は深觀内省して、輿論の實質を吟味し、正論の提唱者となり、公論の指標となつて、多數輿論の名に於て敢行せらるる不合理を是正せねばならぬ。

傳え聞く。立憲政治の總本山たる大英希國のロンドンに於ける月刊、旬刊、週刊の權威は、日刊を凌駕する由。そこには、優秀なる評論記者が、大衆輿論の指導的名論卓說を發表して、輿論の方向決定機關となる由。

之を要するに、月、旬、週刊即ち「非日刊」言論機關の特長は「批判と評論と指導」にありと確信してやまぬ。

本紙將來の願望と期求、蓋しまた、こゝにある。

◉最後に寸言を

記者は、文筆勞働者となつて滿七ケ年になる。素より、その材、その器にあらずして、かけても思はず一管の禿筆以つて文筆勞働に從事するからには、此の一路を辿る事は、恰も荊棘の難道を進み行くが如き、苦痛と艱難を受くるは覺悟の前ながら往々にして氣を腐らし、絕望の深淵に陷沒して、文筆勞働生活を放擲せんかと苦悶する事もある。這般個中の心理は筆にも口にも盡し難いものがある。

所詮、文學、藝術は天才者の從事すべきものである事を今更ながら痛感する、凡愚、記者の如き痩せ馬のあがきが如く、死力を盡しても、到底それは無駄骨折かも知れぬが、しかし、折角過去七年間從事し來つた事業、生活ではあるが故に、今更、無下に放擲するに忍びず、何か快心の著述なり、作品なり、小說、劇曲なりを、この生活の一段落を完成して、つけたき熱願、常に心頭去來の一念である。

本紙の愛讀者諸賢!並びに余が知己、先輩諸賢!!

蓋はくば、余が文筆勞働生活の最後をして有終の美なさしめるゝ樣、指導、聲援、鞭韃、苦言、忠告等を垂れ給はられん事を。

敬親やまぬ鄕土人諸賢の御擁援なくんば、余が事業は到底經營持續する事が出來ない。

自由人語

◉賣女的政治家

◎人肉市場の淫賣婦は、金一封を以つて安價にその節操を賣る。或意味に於て、人身賣買を默認する(形式は年期契約による雇傭關係ではあるが)舊習、舊傳統的制度がある限りそして貧困と無智とのある間は、更に女性の人間的自覺缺如する間は人肉市場の賣女の群は嚴存するであらう。が、しかし、賣女なら賣女として諦らめもするが、大衆代表的人物であらねばならぬ所謂政治家諸君、昨今のデイタラクは何たる醜態だ。

殊に不快極まりなきは、床次竹次郎の出處進退だ。われらは床次の心事を理解するに苦む。今より十數年前、內務次官當時の彼は、未來の總理を以つして、現在の樣な境遇になられたか!?是れ、私には解き難きクロス、ワードだ!!

われら學窓にある時、床次先生は、現在抱懷する思想の一斷想も一片鱗も表現されなかつた。

その人が今や急角度に非常展開して、所謂極左傾の鬪將として、無產大衆解放運動に血戰して居る。不可解でならぬ。

敎へ子である私は極右傾の鄕土主義者と化石して、祿々瓦礫の如く滿五年故山に固定的生活を營んで居る。

所詮は、フローレンスの詩人ダンテの「汝の道を步め、人の云ふに委せよ!!!」か!?

四恩師よ!健在なれ。愚鈍なる弟子たる自分も、心奧靈底に幽憤を秘めて、勇敢に、悲壯に自己の道を步む決意。

平銀行關係經濟人に對して善意の進言

一、銀行當事者に對して

(イ)不當の比率を以つての屈辱的併合は絕排せられよ。

(ロ)自力單獨開業は全石城經濟人の熱願たるを忘るゝ勿れ。

(ハ)銀行內部の改造は輿論である。

二、殊に重役に對して

(イ)深觀內省して經濟非常時に善處せられよ。

(ロ)萬一合併決裂の際は進んで私財を提供し預金者に對して安堵と信賴を與へよ。

(ハ)現代の新經濟思潮、金融狀態を研究して頭腦を常に淸新潑溂たらしめよ。

(ニ)固定的不良貸付は情實を絕排して斷乎整理せよ。

三、預金者、株主、債務者に對して

前記三者諸賢は石城財界の安定を大局の理想として目前の小利私益を一擲して一時の苦痛を忍ばれよ。

御大典記念事業として

本社は雄辯研究部を創設す

（全磐城の青年と大衆諸賢に檄す）

現代ほど言論の必要なる時代はない。思想表現の機關として意志表示、感情發露の道具として、言論は絶對最先に必要である。

しかも、世界の文明國に於て言論の輕視せらるゝ現代の日本ほど甚しきはない。

更に思ふ。所謂世界三大强國民中日本人ほど言論拙劣なるはない。

飜つて觀ずれば、現代日本は普通選擧制度の時代である。而して選擧の戰術は「言論と文章」との二つある而已。乃ち普選と言論は絶對不可分の關係にある。

今日及び明日の政治生活に於て殊に普選時代に於ては、言論の必要なる事贅言を要しない。

一言にして云へば吾人の政治生活完成のため雄辯研究部を設く。是れ創設理由の一つ

加之、吾人の日常生活に於て言語、文字、表情態度、等々に依つて、思想、意志、感情を表現する。就中最も有効にして、直接なるは、言語である。拙劣なる言語、粗野なる言葉、表情不足なる言論がわれらの生活に於て、意志の疏通を決き、感情の離反を來すは常に体驗する所である。

日常生活充實の一助として雄辯研究部を設くるは、是れ創設理由の二つ。

開國半世紀、對世界的、對國際的交渉は日を追ふて加はり來つた。「東洋の日本」ははゝ一躍して「世界の日本」となつた。

國際外交問題に對する「日本の諾否」は重大視されるに至つた。從來我國より派遣せらるゝ對外交渉使節が、國際外交の檜舞臺に於て、殆んど木偶の如く何等權威ある發言が僅少であつた事は國民の等しく遺憾至極とする所であつた。

ウオシントン會議に於て、ベルサイユ會議に於て、その實例を直視してやまぬ。

是れ建國三千年、隣人外國との交渉往來少なかつた結果、對外交の戰術を心得ず、加之、意志を明確に表示する言論の拙劣なるに起因するを痛感する。

將來の日本は益々その對外關係に於て、國際問題に對する國民の總意を表示する機會が多くなつた。

是れ本社が雄辯研究部設立の理由の三。

今や曠古の御大典は完全に終了した。昭和維新日本の雄々しい門出に、永遠なる紀念事業として本社は雄辯研究部を創設した。全磐城青年の來投を熱切に冀ふ次第である

時事管見

◎石城舊政友の經濟牙城たる平銀行は、突如休業を發表した。

休業理由は、極めて簡單、曰はく「有力銀行と合併準備のため十二月十八日まで休業」

磐銀過般の休業の際は、まさに晴天の霹靂であつた。一大センセーションを捲き起した。しかるに此度平銀の休業に於ては人心極めて鎮靜だ。

何が故に？

說をなすものあつて曰はく、赤裸々に休業の事情、萬己むを得ざる事情を勇敢に發表して非常時に善處したから。

又曰はく、一般大衆殊に經濟人が銀行休業に慣れてしまつたから。等々。

さはれ記者は純生鄕土人として、鄕土生え拔きの資本集團が「自力ではやつてゆけぬ」と、悲鳴？をあげて、他力宗派の軍門に降る一事を殘念至極とするものである。

炭礦經營も他來人の他力、銀行經營も亦。

◎かく相成つては、純生鄕人の悲哀骨髓に徹する次第だ。

鄕土石城の舊家は大半、明治の御代に到潰した。大正より昭和へかけて殘存する舊家は極めて僅小。しかも平銀行とその環境の經濟人は手堅い鄕人の有產階級者が多い。休業による經濟的打擊、生活故障も甚大深刻。

鄕土青年に語を寄す！

われらは、先輩の他力本願を絶排して、自力生活態度を樹立しやうではないか。

他來人の手より經濟機關を奪還しやうではないか。潑溂たる生命は自力創造より生れる。

知人消息

◎諸橋守次氏　今夏奇禍を蒙り、以來數ヶ月間靜養中であつた氏は、昨今九分通り回復した。豪放勇膽の氏が、しかも頑鐵の如き氏が病む姿は一入物淋しい樣な感じがする冷明なる頭腦の所有者、賢弟元三郎氏は獅子奮迅の雄勢を以て大兄の分まで二人前働いて、此の經濟鄕難に善處する

◎野崎滿藏氏　公人としての縣會議員たる氏の政治生活は、多事多端である。昨今記者諸君と「時局談」を試みやうとして數名の記者を歷訪された。他の一般の政治家も氏の樣な結構な心掛けがあつてほしい。野崎氏は大衆的政治家として大成する可能性をもつ

◎山崎吉平氏　今度の平銀行休業に當面して一身を挺して蹶起した。本月十九日一年振りで平銀の一室で氏と對談した。かゝる非常時の秋有事嶄然として起つは、まさに男子の本懷、烈士暮年壯心旺なりといふべきか。

◎大和田與平氏　氏は獨特の論陣を張つて、平銀の牙城に迫る。その意氣の壯烈なる他の追隨を許さない。

去る十九日午後、平銀の一室に於ける高岡唯一郎、山崎吉平兩氏に對するの「頭取對面の要求」はまさに木村重成「家康對面の要求」の面影があつた。

氏の半面は躍如として此刹那に表現された。

◎八月下旬、耶麻郡政戰に參加して以來健康を害し先輩、知己、友人諸賢より深甚なる御配慮を忝うし深謝に堪えず。昨今全快致し益々自重鄕難の故山に善處いたさむ決意に候

各位　山田綠雨

山崎合名會社
電話一〇・二七番

縣會議員
若松美三
野崎滿藏
山崎吉平
鷺清昇
古川傳一
鈴木辰三郎

釜屋商店
電話九・一三九番

石城郡銀行 合組
平町藝妓屋 合組
平町料理屋 合組
平三業保健 合組
平西洋料理 業組合
入山採炭 株會社
古河鑛業 株會社
小田炭礦 株會社
四倉會社銀行 合組
石城郡第一區 平町公私立學校長會
懇話會
平町會議員 一同
高久村 村長 鈴木喜太郎 助役 本間武 收入役 箱崎豊
赤井村 古市喜三郎
磐城建物株式會社 支配人 井上貞治郎
平町字田町 高久病院 院長 醫學士 高久忠 電話一三五番
磐城共濟病院 電話六四一番 院長 醫學博士 難波睦 主事 賀澤忠治
平驛前 住吉屋酒井清支店
平町二丁目 履物問屋 三井商店 電話一五六番
平町研町 吉村製綿店 電話二五七番

◎平銀行休業

◎有力銀行と合併準備のため本月十九日より十二月十八日まで休業